

提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」  
インパクト・レポート

1 提言等内容

- ・ 従来、宇宙膨張に関する法則については「ハッブルの法則」と呼ばれてきた。国際天文学連合では、宇宙膨張に関する先行研究の重要度に鑑み、「ハッブル・ルメートルの法則」と改名を推奨することが第 30 回の国際天文学連合総会で提案され、2018 年 10 月の電子投票で決議された。
- ・ この決議に伴い、国内の学校教育現場などで混乱が起きないように、社会の各分野で以下の対応が取られることを希望したものである。すなわち、

- (1) 学校教育で用いられる教科書における記述変更は直近の改訂時に対応する。それまでは教科書に対する特別の補充資料は作らず、現場での解説で対応する。
- (2) 各種試験で、宇宙膨張の法則の名称そのものを問うて、『ハッブルの法則』か『ハッブル・ルメートルの法則』かによって解答の正否が分かれるような問題は出さない。
- (3) 学校教育現場に限らずしばらくの間は、『ハッブルの法則』と『ハッブル・ルメートルの法則』のどちらが使われていても問題とはしない。
- (4) 一般書やマスコミ等の記述、講演会などで用いる名称は担当者次第であるが、IAU 決議の趣旨を踏まえて『ハッブル・ルメートルの法則』を用いることが望ましい。

2 提言等の発出年月日

2018 年 12 月 26 日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

分科会などのメンバーが所属する研究機関、特に自然科学研究機構国立天文台では、天文情報センター広報室および普及室を中心として、本提言の趣旨の説明やマスコミ各社の問い合わせに対応した。また、分科会委員を中心として、各種学会誌や新聞、オンラインメディアなどに寄稿し、周知を図った。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

特に該当なし

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

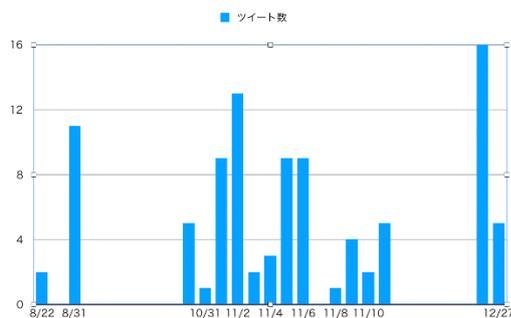
- ・日本天文学会理事会および評議員会においては、分科会委員長が中心となり、本提言の趣旨を説明し、議論を行った。
- ・日本天文学会の機関誌：天文月報において、提言に至った背景と事実関係の調査結果などを含む解説記事を掲載した（天文月報 2020年1月号掲載予定）。
- ・公益社団法人日本天文学会の学会事業である「インターネット天文学辞典」の対応する項目名を変更し、内容を一新した。

#### (b) 研究教育機関

- ・自然科学研究機構国立天文台が編集している2020年の理科年表トピックスとして取り上げ、解説記事を掲載した。
- ・自然科学研究機構国立天文台では、天文情報センター広報室を中心に、本件に関してメディアからの問い合わせなどへ対応した。

#### (c) 市民

- ・自然科学研究機構国立天文台の質問電話受付には、改名に関する一般市民からの問い合わせがあり、背景などについて丁寧に説明した。
- ・国内のSNS上でハッブルの法則の改名についての情報が流れたのは国際天文学連合が提案した総会直後の8月末、投票結果が出た11月初め、そして学会会議の提言が発出された12月末の3回あったが、結果的には学会会議の提言直後が最も多かった。（ツイッターでの検索結果：下図参照）



## 5 メディア

- ・オンラインメディア掲載件数 87件
- ・主要紙 9件

### 1 朝日新聞 11月1日 夕刊

“「ハッブルの法則」改め「ハッブル・ルメートルの法則」に 国際学会  
2年早く発表の学者名追加”

### 2 朝日新聞（大阪） 11月1日 夕刊

“「ハッブルの法則」→「ハッブル・ルメートルの法則」  
別の論文発表の学者名追加 “

- 3 読売新聞 11月5日 夕刊  
“ハッブルの法則改称へ 宇宙膨張論提唱 ルメートル追加”
- 4 読売新聞（大阪） 11月5日  
“「ハッブルの法則」名称変更へ 宇宙膨張ルメートルも提唱”
- 5 毎日新聞 11月8日 朝刊  
“宇宙膨張「ハッブルの法則」を 「ハッブル・ルメートルの法則」に  
国際天文学連合が推奨 “
- 6 毎日新聞（大阪） 11月8日 朝刊  
“宇宙膨張「ハッブルの法則」を 「ハッブル・ルメートルの法則」に  
国際天文学連合が推奨 “
- 7 日本経済新聞 12月28日 朝刊  
“宇宙の法則名 変更提言 「ハッブル・ルメートル」に 学術会議”
- 8 毎日新聞 1月4日 夕刊  
“学術会議「ハッブルだけじゃない」 法則名に「ルメートル」入れて”
- 9 毎日新聞（大阪） 1月4日 夕刊  
“名を加えて「ハッブル・ルメートル」 宇宙膨張の法則  
学術会議が変更提言 “

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特に該当なし。

7 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

(a) 予想以上のインパクトがあった

予想以上のメディアでの露出により、代表的な法則名の裏に隠れた研究者があぶりだされたことで、多くの一般市民の方々があらためて宇宙膨張および、その解明に至る研究のプロセスに興味を持ってもらったと考える。

インパクト・レポート作成責任者  
IAU分科会委員長 渡部潤一  
天文学・宇宙物理学分科会委員長 林正彦  
提出日 2019年11月20日